

学校評価総括表

奈良県立飯傍高等学校 (定時制)

教 育 目 標		日本国憲法・教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人権の尊重を基盤とした民主的な社会の形成者としての必要な資質を養い、豊かな文化の創造に寄与する心身とたくましい生徒の育成をめざす。			総合評価		
運営方針		知・徳・体の調和のとれた、自主的・創造的で心身とたくましく活力ある生徒を育成する。			B		
平成29年度の成果と課題		本 年 度 重 点 目 標 具 体 的 方 策 評 価 指 標					
○定通併修制度を設け、三修制によって3年生3名が卒業した。本年度もさらに多くの生徒の学習ニーズに応えられるよう、希望生徒は三年間で卒業できるように取り組ませたい。  ○生徒の日々の生活実態を把握し、基本的生活習慣の確立や基礎学力の向上を目指す取組を継続し、適切な支援を行いたい。	○規範意識の向上を図る。	○基本的な生活習慣の確立を促す。 ○社会のルールやマナーを身に付けた生徒を育成する。	体 的 的 目 標	課 題		改 善 方 策 等	
	○自他を尊重する心の育成を図る。	○各生徒の悩みや課題の把握と理解に努める。 ○お互いを支え合い、信頼し合える人間関係づくりを促す。					
	○基礎・基本の定着と進路希望の実現を図る。	○確かな学力を身に付けさせるため、魅力ある授業を行う。 ○将来を見通した進路希望の実現を援助する。					
	○教職員の資質と指導力の向上を図る。	○授業公開や研修会などを積極的にを行い、自ら指導方法の改善に努める。 ○常に研鑽に努め、自ら資質の向上を図る。					
	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策 ・ 評 価 指 標			自己評価結果		成 果
教務部	生徒にとってわかりやすい授業をめざす。	生徒にとって魅力ある授業展開の工夫及び指導の改善を行うことができよう、授業観察を通じて、研究を深める。	B	B	他教科の授業観察する期間を設けることで、指導の工夫や改善点について考えることができた。さらに、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に努めていきたい。	本年度は、第1学年生徒の学力不振者が例年と比較して少なかったが、上級生の中に気持ちのゆるみから成績不振となっている者がいる。今後は、長期的な視点から学力の充実を図れるように、指導の改善に努めていきたい。	かつての働きながら学ぶ者のための定時制課程高等学校という在り方よりも、多様な経歴を持つ高校生の学びの場という側面が大きくなっているのなら、個々の事情を理解した上での教育活動を期待する。
	生徒が主体的に学習に取り組む体制を確立する。	高認試験の科目合格や定通併修など学校外の学習活動の単位認定を行い、多様な学習意欲に対応する。	A	A	本年度は3年修業での卒業希望者が大学進学予定であり、生徒の学習意欲に対応できたと思われる。		
生徒指導部	基本的生活習慣の確立を目指す。	遅刻・早退届記入時に必ず声掛け、理由を聞く。欠席連絡のない場合は家庭・職場等に連絡する。	B	B	遅刻時には職員室で理由を聞くことができた。欠席連絡についても、担任の先生よりほとんどの場合、連絡することができた。	授業に取り組む姿勢、携帯の取り扱い等の規範意識は、徐々に良くなってきているように感じるが、まだ生徒によってはなかなかルールを守れないこともあるので、粘り強い指導・体制作りが必要である	
	規範意識の向上を目指し、集中・安心して学べる学校づくりを目指す。	・校門での立哨、通学路の巡視を行う。 ・授業中の携帯電話の使用禁止を徹底する。	B	B	通学路、駅等での巡視については、年度当初と月1回程度実施することができた。 携帯電話の取り扱いについても概ねルールを守れていたが、授業中に使用し注意されるケースもあった。		
進路指導部	生徒指導に関わる情報を全職員が共有し、様々な事態に迅速に対応できるようにする。	夕礼、会議等で生徒指導の動向や生徒の情報を共有し、迅速に対応できる体制を整える。	A	A	重要な生徒の情報については、夕礼・会議等で迅速に情報共有を行うことができた。	「福祉のお仕事体験セミナー」を初めて実施することができた。各学年共に好評であった。今後も継続して取り組むことが必要であると思われる。介護の仕事に興味を持つ生徒も現れるなど効果的であった。	
	一人ひとり自らの適性について気づき将来の希望の実現に向けて前向きに学習する態度を養う。	進路についての情報を集めて積極的に考えてみる。	B	B	継続就労を希望する生徒が大半であった。新たに介護の仕事を目指す生徒もいた。		
		自らの適性について考える機会をもたせてみる。	B	B	LHR等で企業研究や求人票の見方について意欲的に取り組む生徒もみられた。		
人権教育部	幅広い情報の中から、多様な価値観を理解させ、自分や他人の人権をお互いに尊重できる実践力を身につける。	コミュニケーションを大切にし、互いの違いを正しく理解し、明るいなかま作りに取り組ませる。	B	B	各学年ともクラスが落ち着いてきて、相手のことを考えながら、互いに話ができるようになってきている。	全学年が一緒になって行事に取り組めるような機会を増やして、学年間の壁ができないようにしたい。	
		人権講演会や映画会を通して人権について考え、自らの体験に基づいた人権作文を書かせる。	B	B	人権講演会には、しっかり集中して講師の話を聞き、考えることができた。		
		毎学期、職員による人権教育研修を実施する。	B	B	毎学期の研修会開催はできなかった。 いろいろな制約があり、講師の選定には苦労している。		
保健体育部	体育的行事を行い、生徒間の交流を深める。	スポーツ行事を年2回実施する。	A	A	例年と同様にスポーツテスト・ボウリング大会を実施し、学年を超えて、生徒同士の交流を深めることができた。	目標の設定をより明確にし、より多くの生徒が自ら参加できるよう努める。	
	自らの身体の健康について理解させ、健康の保持増進を図る能力を育成する。	スポーツテストを実施し、各自の運動能力を自覚させる。 身体測定や健康診断の結果をもとに、自分の身体状況や健康状態を把握させ、健康な生活を行うよう指導する。	B	B	全生徒に実施することができなかったが、自分の運動能力に興味・関心を持たせることができた。 自分の健康状態を把握できていない生徒が多いが、健康な生活を実践できていない生徒には指導を行った。		
一 学 年	基本的な生活習慣を確立し、高校生としての自覚をもたせる。	保護者との連携を密に取り、欠席・遅刻・早退を減らす。	B	B	不登校生徒が登校しやすいクラスの雰囲気作りが、概ね功を奏した。	欠席が多い特定の生徒への指導については、今後の課題としたい。	
	挨拶や礼儀・マナーの向上を図る。	様々な場面で挨拶や礼儀・マナーについて具体的に指導し、不十分であった場合にはその場で指導する。	B	B	挨拶については、比較的できていた生徒が多く、今後も継続的な指導を続けたい。		礼儀・マナーの面で、その場で指導できていないケースもあったので、今後の課題としたい。
	生徒が教員に相談したり、話しやすい環境づくりに努める。	日頃から積極的に生徒への声かけを行う。生徒とのコミュニケーションを図り、生徒の些細な変化を見落とすことなく、対応できるようにする。	B	B	種間孤立するなどの生徒も生じたが、身や心配な生徒がいると周囲の生徒が教員に知らせに来るなど、生徒間のコミュニケーションは概ね良好であった。		
二 学 年	自らの進路について、意識づけを行う。	HR活動や個人面談を通じて、積極的に進路の情報を提供し、進路選択の重要性を、生徒自らが積極的に考えられるようにする。	A	A	HRや個人面談、三者面談などを通じて将来の進路について考えることができた生徒も出てきた。7名が三修制に挑戦している。	将来の進路について考える機会をHRなどを利用して増やして行き、進路関係の情報を積極的に伝える。	
	学校生活での規範意識の向上を図る。	SHRや授業での起立・礼の徹底や挨拶など授業を受ける態度の指導を行う。	B	B	SHRや授業での起立、礼はある程度できるようになってはきているが、まだまだ十分とはいえない。自ら挨拶を出せる生徒も全員ではない。		

	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策 ・ 評 価 指 標	自己評価結果	成 果	課 題	改 善 方 策	等 学 校 評 議 員 会 より
三 学 年	規範意識を高める。	卒業年次に向けて必要な生活態度・礼儀やマナーとともに、責任ある言動を身に付けさせる。	B	挨拶が明るくしっかりとできるようになってきた。ルールやマナーについて自ら考える生徒もでてきた。		敬語の使い方や目上の人に対する接し方をさらに十分に行えるようにする。	
	確かな学力を身につけさせる。	学び方を指導する。表現力を高めさせる。	B	B 授業を大切に考えられるようになってきた。学び方を工夫するようになってきた。		さらに授業に積極的に集中して参加できるよう、LHR等を通じて指導する。	
	進路について、方向性を確立させる。	具体的な情報を提供し、考えさせたり、選択させる。	B	アルバイトなどの取組を通じて働くことの意味について考えることができるようになってきた。		将来、継続就労を希望する生徒に対して、自分自身の信用を高める指導を行う。	
四 学 年	最後の高校生活の充実と、進路の実現を図る。	社会人として必要な生活態度・礼儀やマナーとともに、最上級生として責任ある言動を身に付けさせる。	B	B 日常の挨拶や基本的なマナーなどを十分ではないが身につける事ができた生徒もいた。自分から積極的に取り組めるまでにはいたっていない。		生徒の自己実現のためには、生徒の夢やものの見方、価値観の変化についての理解が必要である。礼儀やマナーは就労している生徒が早く身につける事ができている。	
		進路情報伝達や進路相談を行い、生徒の主体的な進路実現ができるよう指導する。	B	LHRなどを利用して現在の仕事や職場環境について面談をおこなった。将来の目標ややりたい姿などについて作文指導を実施した。		卒業後は自分自身の判断で物事を選択し、決定をしなければならぬ。自ら主体的に行動できる生徒を育てることが必要である。	
国 語 科	漢字の習得に対するの関心を高め興味をもたせる。	自分の考えを文章に表現させる。	B	B 新聞記事を読み、自分の考えを文章にまとめた。		新聞記事を用いた学習は、話し合いや語句の練習などと組み合わせつつ、引き続き改良を進める必要がある。	
	コミュニケーションを図り意見の交流を大切にす。	理解してわかることのおもしろさを感じて取り組む態度を養う。	B	漢字や慣用語の演習・授業内テストを行い、国語力向上を図った。質疑応答やノート点検を用いて、自主的な国語表現を促した。		学習した内容を生徒が活用できる国語力となるよう、社会や実用の知識と関連づけるなど工夫を行なう。	
地 理 歴 史 科	生徒にとって身近なことから、興味や関心をもたせる。	各種メディアの資料、視聴覚教材の積極的活用を図る。	B	B 歴史を学ぶ授業を中心として視聴覚教材の活用が進んだ。年代地図を進んで見れるようになった。		引き続き視聴覚教材の活用を進め、生徒の興味や関心を引き出すようにする。	
	時代や国々による相違点を認識させる。	美術・文学・音楽等の教材を取り入れ、文化的教養を高めることを目指す。	B	B 諸外国の文化や出来事について興味や関心をひきだすことができた。		歴史的な出来事について身近な人物を取り上げ、進んで興味や関心を持たせるようにする。	
	歴史認識を基礎に幅広い知識を身につけさせる。	考えや思いを文章化できるようにすることを目指す。高卒認定制度の受験対策を併せて実施する。	A	A 高卒認定試験について意欲的に取り組むことができた。2名の合格者を出すことができた。		なるべく早い段階から高卒認定試験に関心を持たせる必要がある。説明会等に参加させる。	
公 民 科	生徒が授業に興味・関心を持つように、時事問題を適時取り入れ活用する。	最新のニュースや統計、情報などに注目し、授業に活用可能な話題を積極的に取り入れる。	A	B 日本国内や世界各地の様子を取り上げ、興味や関心を持たせるようにした。時事問題なども積極的に取り入れた。		具体的な出来事や人物名を取り上げることで、社会の出来事に関心を持たせるようにする。時事問題を増やす。	
	基礎的知識の習得を図るため、教材や資料を精選する。	都道府県や市町村の位置、各地の主な産業などについて学習することができた。世界の主な国名の漢字の略称を学習した。	B	B		将来的生活に必要になるであろう基本的な知識を、学習プリントを利用して繰り返し使用する。社会の基本的な情報について興味を持たせる。	
	現代社会の問題や課題を、主体的に学ぶ視点を養う。	討論や意見交換などを通して、自ら問題に対応する力を身につける。	B	B 18歳選挙年齢制などを題材として授業の中で取り上げることができた。		「私たちが掲げる日本の未来」の教材の効果的な活用を今後も進める。	
数 学 科	基礎的な技能の習得を図る。	かなり基礎的な内容から説明する。	A	B 苦手意識はあるが、基礎的な内容を理解しようと努力していた。		学習面のつまづきを把握し、高校の基礎的な内容も少しずつ詰めて、修正していく。	
		自らの手で問題を解く習慣をつけさせる。	B	B 空欄をうめる形式の発問(板書)が有効で、生徒にとって、良いきっかけになっていた。			
理 科	基礎・基本的な内容の習得を図る。	ノートの取り方の指導や振り返り学習を重点的に行う。	B	B ノートの点検を定期的に行うことができた。		小中学校での学習内容が十分定着していない生徒が多いので、ノートの取り方を指導しつつ、定期的に復習を取り入れていく必要がある。	
	科学への興味・関心を引き出し、科学的な思考力を養う。	科学ニュースの話題や演示実験、視聴覚教材を授業に適宜取り入れる。	B	B 学期に1回程度、視聴覚教材を利用した授業を行うことができた。学年によっては演示実験を行うことができた。			
保 健 体 育 科	授業を通して集団の一員であることを理解させる。	集合・整列等の集団行動を実施し、迅速な行動を身につけさせる。	B	B 集合・整列・挨拶等ある程度習慣化することができた。		引き続き、けいめつをつけることの大切さを理解させ、必要な集団行動を身につけさせたい。	
	運動をすることで楽しさや喜びを味わうとともに、出来た時の達成感を体験させる。	主として球技種目を実施し、生涯に渡って運動を続けていける力を身につけさせる。	B	B 球技を中心に、ルールを守り安全に運動することが出来、楽しさを感じることができた。		さらに、自らの積極性も身につけさせ、生涯スポーツになるよう授業を進める。	
芸 術 科 (書 道 科)	書の基礎的な表現力を養う。	古名蹟を手本にして習わせる。	B	B 手本に向き合い、古名蹟を味わうことができた。		選筆にもっと意識をもたせて味あわせていく必要がある。	
	書を通して自己を表現する。	漢字仮名交じりの書を書かせる。	B	B 漢字やかなを使っての創作活動だけでなく、英語の表現も取り入れた表現活動ができた。表現としての芸術活動に触れさせることができた。		相互の作品を鑑賞しあうことで、創作上の工夫などに気づかせていくことを試みる。	
		基本的な表現力を定着させる。	B				
英 語 科	英語に対する苦手意識をなくすため、自らが積極的に参加できる楽しい授業を工夫する。	表現活動を取り入れ、生徒が興味をもって学習できる授業形態をつくりだす。	B	B 各学年とも真面目に授業を受けている。各自で積極的に取り組めるようにする。		正しい発音で、正確に意味をつかんで理解させたい。	
	学習内容の基礎・基本を定着させる。	復習に力をおき、学習内容を確実に定着させ積み上げていこうとする。	B	B ノート提出や小テストの完成は各自ちんとできている。		自分の学習方法を確立し、積極的に学習させたい。	
家 庭 科	生活に関する基礎的・基本的知識と技能を習得させ、人との関わりの中で、生活者としての自覚と責任のある人間を育てる。	食育を中心に家族、保育の重要性を認識させ、賢い消費者としての実践力を身につけさせる。	B	B 第2学期と第3学期に分けての調理実習を通じ、食の大切さやライフスタイルを考えさせることができた。		時間配分に注意させて、グループの中での責任感を持たせての実習に取り組み、自己肯定感を味わわせるように努めたい。	
		特に、主体的な消費、行動、消費者の権利と責任、資源・環境など、ライフスタイルを考える力を育てる。	B	B 成年年齢に達する者もいる中、消費者の権利と責任、契約の重要性を考えさせた。			
情 報 科	情報社会に適切に参画できる能力・態度を育てるとともに、情報機器を効果的に活用できる力を身につけさせる。	情報に関する倫理的態度と安全に配慮する態度を養う。	B	B SNS等に関する情報モラルについて考えさせた。		SNS依存やゲーム依存にならないようにスマホの適正な利用について指導を行うとともに、情報発信の際の注意点についてより深く考えさせる必要がある。	
		情報機器を活用して、効果的なコミュニケーションを行う能力を養う。	A	B 情報機器を利用して自己紹介を行うことができた。			
商 業 科	ビジネス活動に必要な知識や技能を習得させ、社会人として必要な素養の涵養を図る。	基礎・基本を重視し、問題演習・実習等をおとして知識の定着を図る。	A	B 知識・理解については、基礎・基本の内容が概ね定着しており、今後は意欲の向上を目指したい。		実習課題については、より一層工夫し、実践力の向上を目指したい。	
		ビジネス活動を計数的側面から理解させる。	B	B 数学・電卓の基礎的知識が概ね身につけており、簿記などにおける収益・費用の計算にも役立っていた。		より実践力が身につくような教材や指導法を研究し、ビジネスにおける数的なセンスを身につけさせたい。	